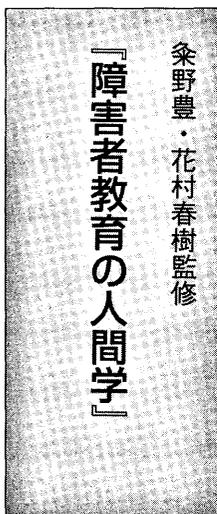


● 図書紹介 ●



糸野豊・花村春樹監修

「障害者教育の人間学」

本書は監修者である糸野豊、花村春樹両氏の他14名の研究者と養護学校の教員によるものである。本書は、タイトルにあるように障害者の教育を人間学的立場からとらえようとしているところに特徴がある。

本書の基本的立場は第1、2章で論じられている。第1章では「障害者教育の人間学——その基本的な見方・考え方」と題し、本書の支柱となる考え方を事例に基づきながら論じており、それは「障害者である前に人間である」という言葉に集約されている。続いて「第2章 視座——分かち合う『生』」においてでは、人間学的視座として障害のある人と分かち合う「生」についての見方・考え方について論じられている。本書では、この第1、2章での基本的な考え方・立場が各章で一貫して維持されている。

本書は全8章から成っているが、第3章以降の構成と概要は以下のとおりである。「第3章 障害者教育の歴史的歩み」では、「福祉から教育へ」の観点から障害者教育の歩みについて述べられている。

「第4章 障害者への教育活動——その現状と課題」では、盲・聾・養護学校、特殊学級、通級による指導、通常の学校における教育について概観した後、障害児・者教育の課題を七つ提示している。「第5章 障害者への教育活動——その内容と方法」では、主に、障害種別にその内容と方法を説明しており、各種の障害に対する理解を深めることができる。「第6章 障害者のスポーツ競技の人間学」では、障害者のスポーツ競技について、パラリンピックやスペシャルオリンピック等を取り上げながら、その社会的意義・機能および今後の課題を指摘している。「第7章 諸外国の障害児・者教育」では、アメリ

カ、イギリス、スウェーデンの障害児・者教育の史的発達や現行の制度が紹介されており、わが国の障害児・者教育の課題を比較教育的観点から捉え直すのに役立つ。「第8章 障害者教育の充実・発展に向けて」では、国際的動向等を踏まえたうえで、わが国における障害者教育の課題と指導者に求められる資質について言及している。

全体的にみて、今日の障害児・者教育に対するあるべき考え方、現状や課題が網羅されており、障害児・者教育関係者にとって資するところの多い図書である。また、本書の執筆者の多くがスポーツ・体育関係者であるため、この分野に関する指摘が随所にみられるところにも、これまでの障害児・者教育関係図書にみられない特徴がある。障害児・者の教育については、教育的側面のみではなく、彼らの「生活の質」(QOL)の向上が重要であり、彼らが人生を心豊かに生きがいを持って生きていけるようにすることが大切である。スポーツを含めた余暇の活用等は重要な課題となっており、その意味で、この点を各所で取り上げている本書は、障害児・者教育に携わる方には是非一読することをお勧めしたい本である。

なお、本書刊行後の2002年に、就学基準に関わる学校教育法施行令22条の3が改正された。本書で該当箇所を読む際にはこの点にご留意されたいことを付言しておく。

(上越教育大学 河合 康)

●中央法規出版, A5判, 306頁, 3,000円(本体)